

方策4. 産業構造の変化への迅速な対応

都市構造とともに変化するのが産業構造である。コロナ禍では、e コマースや宅配ビジネスが好調な一方で、飲食業が打撃を受けた。コロナ禍の影響を受けて既存産業が工夫したり、新たなビジネスモデルを構築したりする（例えばテイクアウトビジネス）とともに産業構造の変化に対応していくことで、貧困対策や産業化が新たに進んでいくだろう。

SDGs 達成へ向けた留意点

1. 新産業育成、雇用領域のシフト：多様なビジネス・労働環境の変化に応じた産業の開発・育成は新たなビジネスチャンスを生み出す。また、コロナ禍以前と比べ、企業、業界を超えた協業の可能性も示唆されている。こうした動向にアンテナを張ることで、新たな産業で求められる知識や技能を習得できるような学習機会やその後の就労支援の提供を行うことは、目標4や目標8にも掲げられていることであり、政策の役割でもある。新たな時代に対応した生活保護を始めとする社会全体のセーフティネットの点検も重要である。
2. 労働環境の変化に応じた重点領域等のシフト、シナリオ作成：コロナで人手不足になるセクターと、余剰が生じるセクターといった、変化するセクターの可視化と重点部門シフトへ向けたシナリオ策定は、公的部門と民間部門の別を問わず重要である。企業のオンライン化などを後押しするために、個人情報保護など、さらなるデジタル化の基盤整備を行うことも重要になる。

達成に貢献する主なターゲット

- 1.1（極度の貧困の撲滅）
- 1.b（貧困をなくす取り組みへの投資拡大の支援）
- 8.2（イノベーションを通じた、より高いレベルでの経済生産性の達成）
- 8.6（就労、就学、職業訓練のいずれも行っていない若者の削減）
- 9.2（だれもが参画できる持続可能な産業化の促進）